

B Z D薬害を考える会

件名: 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA)【情報 Vol.2 3 1】

各位 (本情報提供メールは当会会員、協力弁護士、協力医、報道機関、医療過誤団体、野党政党等の約400カ所へBCC送信しています)

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA) の多田雅史です。

本メールはベンゾジアゼピン (BZD) 関連情報をお送りしています。

- (1) 新規の情報提供希望者が身近におられた場合、BYA-HPの「お問合せ」をご紹介ください。
<https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>
- (2) 有用な情報をお持ちの方は本メールに返送してお知らせください。皆さんに情報提供します。
- (3) 情報の中で「拡散すべき情報」があれば、皆さんの判断で自由に「転送・SNS拡散」してください。

【目次】

1. 眼球使用困難症を知っていますか? (添付)
2. 指導を守らなかった患者が死亡、過失相殺は認められる? (全文添付)
3. オキシコドン塩酸塩水和物徐放製剤の使用に当たっての留意事項について (添付)
4. 医者のはなしがよくわかる“診察室のツボ” <瞼痙攣> 「ドライアイと間違えやすく目が開かなくなる危険も」

【記事】

1. 眼球使用困難症を知っていますか? (添付)
<https://www.nhk.or.jp/heart-net/shikaku/list/detail.html?id=47255>
2020年11月22日 (日) [ラジオ第2] 午後7時30分～8時00分
(再)2020年11月29日 (日) [ラジオ第2] 午前7時30分～8時00分
出演者
若倉雅登さん (医療法人社団 済安堂 井上眼科病院 名誉院長)

以下引用

『視力や視野といった視機能には問題がないにも関わらず、眩しさや眼の痛み、あるいは眼瞼けいれんなどのために、ものを見るのが困難な人たちがいます。「眼球使用困難症」と言われるこの障害は、就労や日常生活に著しい影響をもたらすにもかかわらず、国の法律で「視覚障害」と認められないため、福祉サービスなどの公的支援を受けることができません。番組では2017年にこうした現状を伝え、社会の理解を求めてきました。

そして今年、ようやく事態が変わり始めました。当事者団体や医師がくり返し政府に要望を伝えてきた結果、厚生労働省が実態調査に乗り出すことを決め、研究班が結成されたのです。まさに「眼球使用困難症」が「障害」として認められるプロセスの、最初の一步が踏み出されたと言えます。その一方で、障害年金の支給を巡って争われた裁判では、当事者の訴えが退けられるなど、まだまだ困難な状況は続いています。』

2. 指導を守らなかった患者が死亡、過失相殺は認められる? (全文添付)
<https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/clinic/saibankan/202010/567661.html>

3. オキシコドン塩酸塩水和物徐放製剤の使用に当たっての留意事項について (添付)

2020/11/02 21:19

<https://www.pmda.go.jp/files/000237337.pdf>

4. 医者のはなしがよくわかる“診察室のツボ”〈瞼痙攣〉「ドライアイと間違えやすく目が開かなくなる危険も」

<https://www.asagei.com/excerpt/161496>



全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 多田雅史